

# なは地域貢献便り 9月

なは地域貢献便りとは？那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

## — 第1回社会福祉法人等施設連絡会 2回目の緊急事態宣言に伴い中止 —

去る8月5日(水)開催予定の連絡会は、コロナ感染防止に伴う会議は中止となりましたが、事前に参加法人の資料内容が充実したこともあり、多くの法人に共有したく書面による承認を頂きました。1回目の連絡会で承認された事項を報告します。

## 「社協と社会福祉施設等が連携した地域課題の対応強化について」の講話

県社協地域福祉部 主任 大城利公氏

**経緯** 小規模法人ネットワーク事業は、厚生労働省社会援護局長発の小規模法人のネットワーク化による協働推進事業実施要綱に基づき、沖縄県が認めた実施団体として沖縄県社協・那覇市社協(西原、今帰仁社協)が実施するものです。

**連絡会の目的** 市内に466の社会福祉施設が存在し、小規模の法人を含め様々な法人格をもった福祉サービス提供施設が、地域生活課題を共有し、連携協働することで、単独では発揮しにくい地域貢献のための取組を推進していく。

**事業の指針** 社協と各社会福祉施設が連携・協働し、地域の身近な相談支援体制の整備と包括的な支援を実施する。

**事業内容** ① 社会福祉施設等の連絡会の開催 ② 複数法人の連携協働による地域貢献推進  
③ 福祉人材確保のための取組を推進 ④ コミュニティソーシャルワーカーの配置

4Gに分かれて4施設がこれまでの地域貢献に対する取り組みを共有し、アンケートを実施した中で連携してみたい意見も見られた。

## 地域における公益的な取り組み

ちゅいしいじい(小規模法人ネットワーク事業)

県域 - 市町村域 - 各法人

### 各市町村・地域の課題に対する取り組み

市A校区ネットワーク

社協 食糧支援を通して  
学習支援等  
身近な相談窓口  
法人

市B校区ネットワーク

居場所・福祉講話  
健康相談・食糧寄附を  
通じた相談窓口  
法人

市C校区ネットワーク

保育施設4法人と社協が  
子どもの未来をテーマに  
地域懇談会と  
和の食育講座を開催  
地域でできることを確認  
法人

単独では発揮しにくい  
地域貢献の取り組みも  
連携することで  
できることが広がります

## 次の団体が各分野別に 地域貢献活動の連携に参画いただきました

首里地区	1	社会福祉法人 大名ゆうなの会	高齢
	2	社会福祉法人 若杉福祉会	保育・児童
	3	社会医療法人 葦の会 オリブ山病院	障害・高齢
	4	(社福) (偕生会) 石嶺児童園指定管理	児童
	5	社会福祉法人 からし種の会	障がい
真和志地区	6	社会福祉法人 おきなわ共生会	高齢
	7	繁多川公民館	
	8	医療法人城南会	高齢
	9	社会福祉法人 沖縄中央福祉彩風の杜なは	児童・障害
	10	社会福祉法人 乙羽会 グリーンハウス国場	高齢
	11	日本赤十字社 沖縄県支部	高齢
	12	一般社団法人 ハーネス	障がい
本庁地区	13	社会福祉法人 そてつの会	障がい
	14	社会福祉法人 ポプラ福祉会	保育・児童
	15	社会福祉法人 うるま福祉会	保育
	16	医療法人 正清会 久田病院	障害・高齢
	17	社会福祉法人 雅福祉会 みやび認定子ども園	保育児童
地区緑	18	社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会	地域福祉

# 「地域との繋がり」と場の提供

平成 16 年に那覇新都心に、社会福祉法人認可をいただいて 17 年目に入りました。当時は建物も少なくて、すべてこれからの地域でした。そのため自治会や民生児童委員に積極的に関わりました。私の脳裏に浮かんだのは、この地域での保育園スタートには、園の続く限り地域の方の理解や協力が不可欠になります。地域とつながり、地域を知らないと動くことはできません。自治会活動にも積極的に参加し役員もやらせてもらいました。民生委員も平成 18 年から現在も続けております。特に、今年からは主任児童委員の役割があり、学校との関係も多くなることでしょう。現在はコロナの影響で自粛しています。

地域との繋がりを育てるための私が実践したのは、次の項目です。



雅福社会 理事長 兼城照美

## 1 平成16年に東原公園の公園里親 自主活動

- ・公園の桜の木を子どもたちと一緒に植樹しました。毎年春になるときれいな桜が見られ地域の皆さんを癒してくれます。
- ・毎月1回、公園のゴミ拾いを継続しています。これは子どもたちが公共の場に平気にごみを捨てる子にしないための活動でもある。また、燃えるゴミ、燃えないゴミを分けるのも学びのひとつであり、社会に目を向ける良い機会になっている。

## 2 赤い羽根募金運動と年末助け合い活動への参加 自主活動

- ・子どもたちの学習は、体験とマッチして生きてきます。参加した子どもたちからの声「先生こんなにくさんのお金は、誰がもらうの、どこへもっていくの」毎年のように聞いてくれます。社会へ目を向ける良いチャンスです。
- ・民生委員の方と一緒に 5、6 歳児が参加しています。この活動も 10 年余になっています。どんなに民生委員の方が大きな声を出してお願いしても、振り向いてもくれませんが、子どもたちの黄色い声は“魔法の声”です。

## 3 地域の触れ合い昼食会での余興の提供

後期高齢者及び独り暮らしの方との触れ合いで、民生委員を中心に行われています。高齢者の方は大喜びで、会場一杯が笑顔であふれます。

## 4 平成27年子ども広場を立ち上げる(毎週土曜日活动)場の提供 自主活動

大学生のボランティアの協力を得て、学習支援、給食支援、パソコンでのゲーム遊び、戸外遊びなどで異年齢との触れ合いを楽しんでいます。

土曜日は、学校も休みで給食がありませんので、午前中は居場所での遊び、食事をしてから、午後は部活動へ参加する6年生もいます。



## 5 子育て支援事業・場の提供 自主事業

- ・12 組の地域の親子が遊びにきます。(月・水・金) 300円 払えばランチも仲間と一緒に食事が出来ます。
- ・地域の方に絵本の貸し出しも行なっています。
- ・子育て中の親が孤独感からの解放で友達を求めています 支援事業は、親支援としても力を入れています。



おいしいよ

## 6 相談事業 自主事業

子どもは自らの環境、人的環境・物的環境とも選ぶことが出来ません。弱い立場である子どもの人権を守るためにも、大人が、親が「気づく」ことが大切ではないでしょうか。気づくためには、地域に気軽に話せる「場」があることが、親も子どもも救うための予防策になると考えます。行政では構えてしまい、わざわざ出向くのもおっくになります。地域にあると気楽に話せるといいですね。地域の学校との連携で親や子どもたちと向き合っています。

## 7 中学生との交流事業 自主活動

近隣の中学生が授業の一環として、こども園で年に1回ふれあい会をしています。兄弟の少ない昨今では必要なことです。今年はできませんでした。45 分の授業のなかで、20 分は私が地域のおばちゃんとして話して、残りは各クラスで子どもたちと触れ合っています。安岡中学生の2年生が参加します。

## 8 登校しぶり支援・場の提供 自主活動

近隣の中学生の不登校児童を預かり、こども園の幼い子どもたちと関わることで、安心感が得られるようです。子どもは純粋で人の心をのぞいたりしませんので、警戒することもなく気軽にふれあって人的環境・物的環境とも、癒されるようです。朝の9時から3時まで園で過ごすことができると、授業として認められます。

どんな事業でも相手との信頼関係が育てられないと、継続が難しくなります。特に、大人同士に關係が作られると子どもとの關係はたやすくなります。